

襟かけ名号の功德

大正大学教授 玉山成元

元禄八年（一六九五）江戸の本所二ツ目に、岡村屋五郎兵衛という船大工がいた。夫婦の仲は悪く、一日何回も言い争いをするので、家中のものは困りはてていた。住み込みの弟子である権助は、何とか家庭内が円満になるように考えたけれども名案は浮かばなかった。そこで権助は靈験あらたかな浅草寺の観音さまに祈願し、毎朝四時起きして百日間通いつめ、師匠夫婦が仲良くなることを祈り続けた。八月十七日はその成満の日であるため、いつもより早く起きて参拝した。ところがその帰り道、足どりも軽く、権助が本所回向院の馬場のところまでくると、みるからにあやしい侍に出会った。侍はとっさに刀を抜いて権助の額を斬りつけた。不意をうたれた権助は一瞬のうちに卒倒して意識を失った。しばらくして気がついた権助は、近くの知人である三河屋清兵衛のところまでたどりつき、突然斬りつけられたことを話すと同時に、傷口をみてくれと頼んだ。驚いた清兵衛はよく額をしらべたけれども、特別刀の

痕もなく、皮膚も変わっていなかった。不思議に思った権助は、身につけていた祐天上人の「襟かけ名号」を取り出してみると、「南無阿弥陀仏」の「南」の文字が堅に切られていた。それを見た権助と清兵衛一家の人々はびっくりし、改めて名号の功德の偉大さに感銘した。そしてこの話はすぐに師匠の岡村屋五郎兵衛夫婦に知らされた。そして五郎兵衛夫婦は、自分たちの夫婦喧嘩のために家中のものがどれほど落ちつかず、心配を続けているか、そしてとくに権助は心を痛め、誰も知らない早朝に百日祈願までして祈り続けたことに対し、心から詫び、礼をいった。その上、権助の信じていた念仏の信者となったため、夫婦仲もよくなり、家の中も非常に明るくなった。こうして喜んだ五郎兵衛は、権助を養子とし、岡村屋権左衛門と改名させて近くの四つ目に一軒を構えさせた。

の晩年近くになると、実際に功德のあった名号そのものを求めたいと願う人々も多くなってきた。

正徳四年（一七一四）祐天上人は老齢と健康のすぐれないことを理由に増上寺の住職をやめ、真乗院に移り、のち一本松に隠居した。さらに享保二年（一七一七）芝西応寺から麻布龍土に移ったが、翌年八十二歳でなくなった。上人のなくなる前年、享保二年の秋、江戸のある金持が、権左衛門の持っている靈験あらたかな身代わりの「襟かけ名号」を求めようとした。しかし権左衛門は、自分の命を救ってくれた大切な名号であるから、たとえ千金を積んでも譲るわけにはゆかないといつてことわった。ことわられた金持は、益々ほしくなり、次から次と金額を上のでせて攻めた。最初は絶対売らないといっていた権左衛門も、あまりの金額に目くらみ、大金を手にしてついに売ってしまった。

権左衛門は貸家まで作り、裕福に暮らしていたが、この頃、借家人の某が家賃

襟かけ名号の功德

大正大学教授 玉山成元

をどこにおったまま旅に出た。権左衛門はその留守に、無断で借家人某の家財道具を売り払って家賃とし、他人に貸してしまった。ほどなく某は帰った来たが、みると家は他人が住み、家財道具は売られて何も無い。某はやむなく流浪することになった。しかしどうしても腹の虫がおさまらず、享保四年七月十七日の早朝に権左衛門をたずねた。早い夏の朝方、権左衛門は店先で休んでいたが、たずねた某は恨みのかずかずを言いたて、懐から短刀を取り出して権左衛門の腹につきたてた。権左衛門は間もなく死に、家中のものがあわてふためいている間に、某も自殺してしまった。どこか教訓じみた物語のようであるが、こうしたことは現代の社会にも通ずることである。

人間は頼る気持ちと感謝の気持ちを持つことが大切であり、慢心を起こすと必ず失敗する。先年池袋に小さなコーヒーショップが出来た。清潔でおだやかな中年の夫婦が一生懸命働いてサービスにとめていた。安い値段でコーヒーもおおいしく、いかにも好感のもてる店であった。そのうち空きを待つ人まで出るようになり、話題になって客は増えていった。私も待つているうち見るともなくカウンターの上がのぞくと、そこには「南無阿彌陀仏」の名号札がはられていた。そこで私は二人が念仏信者であることがわかり、より親しみをおぼえるようになった。ところがそのうち周囲を買収して店を倍に大きくし、きれいなウエイトレスをおくようになった。ところが三ヶ月くらいははやったが、それ以後だんだん下火になった。不思議だなと思って店内を見渡したら、どこにも以前の名号札はなく、中年夫婦にもそのような真摯な態度は見られなくなっていた。

江戸時代と現代では、全く時代的にもズレがある。しかし刃物で斬られて死ぬのも、客の入りが悪くなって死に至るのも、死という点では同じである。祐天上人の名号が科学では割り切れない何物かがあるなしは別として、気持ちの持ち方がいかに大切かを教えたことは事実である。